



購読料 年8,000円
送料共 但し、会員
は会費に含まれる
発行所
京都府保険医協会
〒604-8162
京都市中京区烏丸通蛸薬師
上ル七観音町637
インターネットアドレス烏丸6階
電話 (075) 212-8877
FAX (075) 212-0707
編集発行人 久保 佐世

主な内容
代議員(宇久)補選の公示 (2面)
眼科向上会レポート (2面)
2014年度地区懇話アンケート結果 (4面)

ご用命はアミスまで
◆医師賠償責任保険
◆休業補償制度
(所得補償、傷害疾病保険)
◆針刺し事故等
補償プラン
◆自動車保険・火災保険
☎075-212-0303

# 自己負担上限額管理票の運用改善を

## 難病と小児慢性で府へ要請

協会は6月4日、京都府知事宛に「難病医療と小児慢性特定疾病医療に関する要請書」を提出、同時に府担当課と懇談した。懇談には、健康福祉部健康対策課の千葉圭子感染症・難病担当課長、同・山田康之・佐々木一幸疾病対策担当課長、子育て政策課の澤田正美母子保健担当課長が対応。協会からは鈴木卓副理事長と事務局2人が出席した。協会の要請は、代議員アンケートの結果を受けて、自己負担上限額管理票の運用の改善を求めたもの(本紙2931号既報)。



府担当者に改善を要請する鈴木卓副理事長

紙2931号既報)。(1) 一部負担金の徴収方法は、医療機関(内科・歯科)だけで徴収し、薬局、訪問看護ステーションでは徴収しない、という2014年12月以前の方法に戻すこと(2) 「1」を前提として、医療機関で上限額まで徴収し、京都府がレセプトから自己負担総額を計算、当該患者の自己負担限度額を超えた負担金は、自動的に償還払いすること(3) 難病医療の自己負担上限額管理票を手帳の形式にすること(4) の3点について要請した。

### 新年度にあたって 総務部会

5月27日、医療保険制度改革関連法案が成立した。きわめて短い審議時間で、議論を尽くしたとは言えない状況の中、市町村国保の都道府県化をはじめ、患者申出療養、入院時食事療養費見直しなど、医療の姿が大きく変わる法律が成立したと言えらる。

我々は保険医として、専門家であるからこそ、国のこうした動きに對峙しなければならぬ。そして、そ

これに対し、京都府は、(1) ②について「国の制度であるので、京都府単独で変えることは難しい。しかし、府としてはどういう意見について、検討の上、国に伝えたい」と回答した。

この動きに對し、協会は成立前日、「医療保険制度改革関連法案を可決させてはならない」とする談話を発表した。談話では、国民皆保険体制の転換を狙った法案に對し、皆保険

副理事長 鈴木 由一

期である今こそ、一人でも多くの医師に協会に参加していただき、公的責任を放棄しようとする国政へ襟を正すよう求めていきたい。そのために、組織の強化は大変重要と考えてい

た、開業後には各種共済制度の利用の呼びかけ、保険請求の疑問や審査・指導・監査への対策などにも親身になってお答えし、訪問活動を身近に感じてもらい、より多くの会員諸氏に活動に

# 地域の医療費総額を 診療報酬で調整検討へ

## 「保健医療2035」策定懇談会が提言

厚生労働省の有識者懇談会である「保健医療2035」策定懇談会が、6月8日に医療費抑制を目的とした対策の提言案を取りまとめた。提言案は、団塊ジュニア世代が65歳に達し始める35年までの中長期的な健康対策や、医療制度の将来像を示した。人口構成などをもとに医療費総額を地域ごとに算定し、総額を上回った場合は、地域全体の医療機関に支払う診療報酬を引き下げる仕組みの導入や、医師の偏在が続く地域

を患者が利用するときに見える金融サービス・寄付基金などの仕組みを作ることまで提言している。成長戦略を意識した記述も散見される。保険医療のグローバル展開を推進することを目標に、診断・治療提供だけでなく、保険医療の制度設計や運用を含む地域包括ケアシステム、つまり地域単位での医療・介護システムの輸出にも言及している。

# 「困ったときの協会」目指して

ご参加いただければと願っている。7月26日には協会の定期総会が行われるが、総会に続いて行われる講演会・懇親会は、会員との懇親の場として定着してきた。ひとりでも多くの会員にご参加いただき、協会活動について声を聞かせていただければと思う。

垣田理事長のもと2期目となる今期も、4人の新しい理事を迎え、会員のための協会、困ったときの協会、何でも相談できる協会を目指して頑張っていく。ご支援ご協力のほどをよろしくお願い申し上げます。

お念仏と健康という講演を菩提寺でした。比叡山は千日回峰行ならぬ一泊回峰ワンダリングに参加して、般若心経262文字を暗記して唱え、呆け防止に無量寿経などから四誓偈220字やら真身觀文394字も暗記しようとして練習し、熱心な信者と誤解された▼父母が他界し、長男故に仏壇を相続し、先代和尚から信徒日常勤行式を贈られ毎日南無阿彌陀仏を十回は唱えよと、では百回と答えた。同じ短句では飽きか